

## 子どもの心に接近するための覚え書き

1. 「つながる」チャンネルを見つける
  - 子どもへのアプローチの切り口（チャンネル）を見つけ出す
  - たとえば「漫画」「プラモ」「絵本」「折り紙」.....
  - 大人の希望する「チャンネル」ではなく、その子の得意とする「チャンネル」
  - たいていの場合、子どもが提示するチャンネルは大人の期待するものと食い違う
  - 見つけ出した「チャンネル」を通して子どもの内側へ「入れて」もらう
2. 子どものスケールに合わせる
  - コミュニケーションの基本リズムは「子どもスケール」であることを忘れない
  - 時間：子どもの時間経過は通常は大人より早い（子どもの1秒間）
  - 体格・歩幅・目線：子どもには大人と違う世界が見えている（Exa.床に顔を付けてミニカーやプラレール遊び、60cmの視高等）
3. 一方向へ追いかけて過ぎない
  - 子どもの行動や、その時々話題は本来「中途半端」なものである
  - 未完の人（子ども）の持つ、360度の関心の転移を認める
4. 子どもに聴く（前回講義の通り）
  - 子どもと共に探す
  - 子どもと共に迷う
  - 子どもに教えてもらう
5. 大人も楽しむ
  - 子どもの世界に関心を持つ（出来る範囲で）
  - 子どもと「ファンタジー」を楽しむ
6. 評価ではなく感想や意見を提示する
  - 子どもとのコミュニケーションには大人の「評価枠組み」を持ち込まない
  - 減点法から加点方へ
  - 求められたら「素」の感想や意見を提供する
7. 結論より経過
  - 今日の「会話」の結論よりも、その経過（共有した時間と場所）を愛おしむ
  - そのうち、どっち道、あなたから自立・自律（友人・先輩・異性へ）していく子どもたちですから、ぎくしゃくしながら「今」を楽しみましょう